

登録コード:MH3A5100 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目	必修
科目名	見学実習【25M以降】 Early clinical practice			
担当教員	百瀬 公人			
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	理学療法学専攻/1年 通年(集中) 集中・不定期			
単位数、講義室	1 単位		遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標	
	MH25カリ・保健・理学			
	基礎的・専門的な知識と技能 保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。		理学療法士に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、臨床実習の様々な状況で活用できる。	
	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。		変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、理学療法の視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と能動的学習を継続するための力が身についている。	
	問題解決力 保健・医療・福祉の場で生じる多様な情報を、科学的・多角的に収集・評価・分析し、最新情報と科学的根拠に基づいて判断を行うとともに関係者に伝えることができる。		理学療法の臨床現場で生じる多様な情報を、科学的・多角的に収集・評価・分析し、最新情報と科学的根拠に基づいて判断を行うとともに臨床実習指導者および教員に伝えることができる。	
	対人関係形成・協働力 保健・医療・福祉の現場における対象者やその家族、チーム関係者とコミュニケーションをとりながら適切な関係を形成し、保健・医療専門職者として協働的に役割を担うことができる。		理学療法の臨床現場における対象者やその家族、チーム関係者とコミュニケーションをとりながら適切な関係を形成し、実習生として協働的に役割を担うことができる。	
	プロフェッショナリズム 保健・医療専門職者として生命を尊ぶ倫理観と責務・行動規範を身に付け、人々の健康と社会の発展に向けて省察的・自律的に行動することができる。		理学療法士として生命を尊ぶ倫理観と責務・行動規範を身に付け、人々の健康と社会の発展に向けて省察的・自律的に行動することができる。	
授業で学べる「テーマ」	健康長寿			
全学横断特別教育プログラム				
授業概要	急性期病院、回復期リハビリテーション病院、生活期通所リハビリテーション施設、総合リハビリテーションセンターの見学を通して、各病期に応じた生活機能の問題とそれに対応する理学療法士の役割について理解する。本授業は、1年次前期の「新入生ゼミナール」、「理学療法概論」の発展科目に位置付けられ、1年次後期の「リハビリテーション概論」と相補的に学んでいきます。また2年次以降の各種専門科目に向けた前提科目となります。 本授業は、担当教員の医療現場における理学療法士としての実務経験を活かして実習を行います。			
授業計画	4月 見学実習全体のオリエンテーション 8月上旬 急性期・回復期・生活期の施設実習オリエンテーション 8月下旬 回復期リハビリテーション病院実習 9月前半 急性期病院および生活期通所リハビリテーション施設実習 9月中旬 急性期・回復期・生活期の施設実習に関するグループ発表 ・急性期の理学療法 ・回復期の理学療法 ・生活期の理学療法 ・病期間での連携(急性期-生活期、急性期-回復期、回復期-生活期) 12月下旬 総合リハビリテーションセンター実習オリエンテーション 2月上旬 総合リハビリテーションセンター実習、授業アンケート			
授業の進め方	1. 実習オリエンテーションを行う。 2. 各施設において実習を行う。 3. 見学実習全体を通して経験した内容を実習支援システムのチェックリストに記録する。また自己評価をルーブリックに記録する。 4. 急性期、回復期、生活期の各病期における理学療法の実践や病期間での連携について、見学実習で学んだことをグループ発表する。 5. 自己学習の内容でポートフォリオを作成する。 6. 各実習施設ごとに指定された形式で実習レポートを作成する。			
テキスト、教材、参考書	これまでに使用した教科書や配布された資料。 参考書：標準理学療法学・専門分野 理学療法臨床実習とケーススタディ（鶴見隆正、辻下守弘 編、医学書院）			
成績評価の方法	チェックリスト、ルーブリック、ポートフォリオ、グループ発表やレポート課題を総括的に評価します。 総括的評価の配分は、チェックリスト20%、ルーブリック20%、ポートフォリオ30%、グループ発表やレポート課題30%とし、総得点の60%以上を合格とします。			
成績評価の基準	評価は、チェックリスト、ルーブリック、ポートフォリオ、グループ発表やレポート課題の内容に基づいて、下記の基準で行います。 秀：課題に対する具体的な対応を十分に行うことができる。			

成績評価の基準	優：課題に対する具体的な対応を概ね行うことができる。 良：課題に対する具体的な対応を基本的なレベルで行うことができる。 可：課題に対する具体的な対応を最低限のレベルで行うことができる。
事前事後学習の内容	【事前学習】 事前に見学実習についてオリエンテーションを行います。能動的に臨床実習に参加できるよう、急性期、回復期、生活期の理学療法ならびにリハビリテーションの在り方について自己学習を行ってください。 【事後学習について】 臨床実習での学び（経験したこと、実習を通して成長したこと、今後の行動目標など）について、教科書や文献で自己学習した情報を補ったうえで、自分の考えも交えて説明できるようにしてください。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	本授業は初めて臨床現場で学習する機会であり、理学療法への理解を深めるとともに、医療従事者としての基本的態度を習得することを目的としています。体調の自己管理に努め、欠席や遅刻をしないこと、疑問や困ったことがあれば早めに教員に相談することを心掛けてください。見学実習ではありますが、事前準備を十分に行い、学生として少しでも患者貢献できるように努めてください。 質問への対応：百瀬公人 kmomose@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：随時（要事前連絡） 保健学科南校舎4階 百瀬研究室